



# 第39回 愛媛形成外科研修会

## 抄 録 集

日 時 平成29年6月24日(土) 17時00分～  
場 所 愛媛県立中央病院  
3階 中会議室①②  
愛媛県松山市春日町83番地  
TEL:089-947-1111

当番世話人

愛媛県立中央病院 形成外科 小林 一夫



## 第39回 愛媛形成外科研修会

### 研修会について

1. 参加受付は、16時30分より会場で行います。
2. 参加費として2,000円を受付にて申し受けます。
3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 発表時間は、一題あたり3～5分、質疑応答は3分を予定しております。
5. PCはWindows7、PowerPoint2013を使用しての発表になります。  
(当日は、USBメモリーあるいはPC本体を持参して下さい。)

## 会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 1 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成 10 年 7 月 4 日	15 名
第 2 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成 10 年 12 月 5 日	17 名
第 3 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成 11 年 6 月 19 日	20 名
第 4 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 11 年 11 月 27 日	19 名
第 5 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 6 月 24 日	17 名
第 6 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 12 月 9 日	20 名
第 7 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 6 月 23 日	23 名
第 8 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 12 月 8 日	23 名
第 9 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 6 月 8 日	27 名
第 10 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 12 月 14 日	27 名
第 11 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 6 月 28 日	25 名
第 12 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 12 月 13 日	25 名
第 13 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 6 月 26 日	26 名
第 14 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 12 月 4 日	29 名
第 15 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 6 月 18 日	31 名
第 16 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 12 月 10 日	35 名
第 17 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 6 月 24 日	31 名
第 18 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 12 月 9 日	26 名
第 19 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 6 月 16 日	37 名
第 20 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 12 月 15 日	30 名
第 21 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 6 月 14 日	30 名
第 22 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 12 月 6 日	30 名
第 23 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 6 月 27 日	32 名

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 24 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 12 月 12 日	28 名
第 25 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 6 月 19 日	34 名
第 26 回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 12 月 11 日	30 名
第 27 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 6 月 18 日	31 名
第 28 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 11 月 26 日	25 名
第 29 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4 階 末広	平成 24 年 6 月 23 日	34 名
第 30 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 24 年 12 月 1 日	26 名
第 31 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 25 年 6 月 22 日	36 名
第 32 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2 階 楓の間	平成 25 年 11 月 30 日	30 名
第 33 回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 26 年 6 月 21 日	32 名
第 34 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カンファレンス会議室	平成 26 年 11 月 29 日	32 名
第 35 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 27 年 6 月 27 日	36 名
第 36 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	HITO 病院 3 階 大会議室	平成 27 年 11 月 21 日	27 名
第 37 回	手塚 敬 (松山市民病院 形成外科)	松山市民病院 2 階多目的ホール	平成 28 年 6 月 11 日	32 名
第 38 回	河村 進 (四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 28 年 12 月 10 日	30 名
第 39 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 3 階中会議室①②	平成 29 年 6 月 24 日	

## 愛媛県立中央病院へのアクセス

### 交通

#### ・電車

伊予鉄道「松山市駅」下車、南へ徒歩約800m（徒歩約15分）

#### ・バス

伊予鉄道路線バス「市坪・はなみずき線」「都心循環東南線」で「県病院前」下車すぐ

### 地図



愛媛県松山市春日町83番地 TEL:089-947-1111

## プログラム

## 一般演題

section 1 (17:00~17:24) 座長: 静岡がんセンター 中川 雅裕 先生

1. Infantile digital fibromatosisが疑われた1例 (5分)  
松山赤十字病院 形成外科 松村 辰彦 他
2. 一昨年発表された新しい多合趾症手術術式の追試 (5分)  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 三宅 啓介 他
3. 第4趾巨趾症の1例 (5分)  
愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 他

section 2 (17:24~17:47) 座長: 四国がんセンター 山下 昌宏 先生

4. デブリードマンにハイドロサージェリーシステムを用いた症例 (4分)  
愛媛県立中央病院 形成外科 大屋 英里子 他
5. 下顎再建術後のプレート露出に対してPerifascial Areolar Tissue(PAT)と分層植皮で被覆した1例 (5分)  
静岡がんセンター 再建・形成外科 中川 雅裕 他
6. 顔面神経線維腫に対するメッシュ吊り上げ術の経験 (5分)  
愛媛県立中央病院 形成外科 田中 克弥 他

section 3 (17:47~18:09) 座長: 愛媛県立南宇和病院 森戸 浩明 先生

7. 妊娠に伴う腹直筋離開の治療経験 (5分)  
愛媛県立中央病院 形成外科 徳永 和代 他
8. 18年の経過を経て再発した隆起性皮膚線維肉腫の1例 (5分)  
住友別子病院 形成外科 安井 史明 他
9. 急速に進行し下腿切断に至った多形性肉腫の1例 (3分)  
四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科 藤田 悟志 他

section 4 (18:09~18:25) 座長: わたなべ皮ふ科・形成外科 渡部 隆博 先生

10. 放射線治療後に再発したKaposiform hemangioendothelioma(KHE)にVincristine療法が奏功した一例 (5分)  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 泉本 真美子 他
11. 頸部から胸部にかけて発生した巨大リンパ管腫の1例 (5分)  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 木村 千寿 他

総会 (18:25~18:50)

共催: 松山形成外科医会 愛媛形成外科医会

一般演題

section 1 (17:00~17:24) 座長: 静岡がんセンター 中川 雅裕 先生

1. Infantile digital fibromatosisが疑われた1例

松山赤十字病院 形成外科

○松村 辰彦、庄野 佳孝

(5分)

症例は0歳、女児。生後3ヶ月頃に右5指先端部に5mmの皮下硬結が現れた。その後、半年間で両側の3、4、5指先端に同様の病変が現れ、腫脹・増大がみられた。病理では非特異的な繊維細胞の増殖がみられ、臨床的にInfantile digital fibromatosisが疑われた。若干の文献的考察を加えて報告する。

2. 一昨年発表された新しい多合趾症手術術式の追試

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○三宅 啓介、森 秀樹、戸澤 麻美、村上 達郎、松満 沙代子

(5分)

外側趾列多合趾症は2000出生に1例の割合で発生し、頻度の多い先天性疾患の1つである。一般的な術式として丸毛法があるが、底側皮膚によりしばしば趾先が分厚くなることを経験する。2015年西関が発表した術式を当院で追試したところ、良好な経過となっているので報告したい。



### 3. 第4趾巨趾症の1例

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野 憲太郎、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、尾崎 絵美、田中 克弥

(5分)

症例は16歳男性。生後3か月で左第4趾が大きいことに親が気づき近医受診し、その後も経過を診られていた。患趾は成長とともに徐々に大きくなり成長終了後、外科的加療目的に当科を紹介受診した。初診時の時点で左右同サイズの靴を履くことができなかったが手術により長軸、短軸(横幅)ともに縮小が得られ、術後6ヶ月現在も左右同サイズの靴で生活できている。巨趾症について若干の考察を加え報告する。

section 2 (17:24~17:47) 座長: 四国がんセンター 山下 昌宏 先生

4. デブリードマンにハイドロサージェリーシステムを用いた症例

愛媛県立中央病院 形成外科

○大屋 英里子、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、尾崎 絵美、石野 憲太郎、田中 克弥  
(4分)

ハイドロサージェリーシステムは、滅菌生理食塩水の高速水流を利用したデブリードマン専用手術機器である。機器の特徴として、健常組織を温存し、植皮の生着率を向上させるような均一な創面を提供する。また、細菌を取り除き、創傷の感染リスクを軽減する。今回、当院で機器を使用した症例を供覧し、その有効性を紹介する。

5. 下顎再建術後のプレート露出に対してPerifascial Areolar Tissue(PAT)と分層植皮で被覆した1例

静岡がんセンター 再建・形成外科

○中川 雅裕、赤澤 聡、市川 佑一、青山 昌平、中村 亮太、木内 智喜、御任 大輔  
(5分)

症例は76歳、男性、下歯肉癌に対して下顎区域切除と遊離腓骨皮弁による下顎再建を行った。術後、遊離腓骨皮弁の血流は良好であったが、頸部皮膚が壊死し、腓骨とプレートが露出した。NPWTにてwound bed preparationを行い、露出した腓骨とプレートをPATおよび分層植皮で被覆した。現在、後治療として同部を含めて放射線照射を行ったが、植皮の生着は問題ない。

6. 顔面神経線維腫に対するメッシュ吊り上げ術の経験

愛媛県立中央病院 形成外科

○田中 克弥、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、尾崎 絵美、石野 憲太郎

(5分)

顔面神経線維腫はレックリングハウゼン氏病に認められる症状の一つであり、患者にとって大きな心理的負担になる病態となる。治療は切除が基本となるが完全切除は困難で再発を繰り返す。我々は切除術にメッシュつり上げ術を併用し良好な結果を得たので若干の考察を加え報告する。

section 3 (17:47~18:09) 座長：愛媛県立南宇和病院 森戸 浩明 先生

7. 妊娠に伴う腹直筋離開の治療経験

愛媛県立中央病院 形成外科

○徳永 和代、小林 一夫、中川 浩志、尾崎 絵美、石野 憲太郎、田中 克弥  
(5分)

腹直筋離開は本邦ではあまり知られていないが、主に妊娠を期に、左右腹直筋の間にある白線部が菲薄化して、腹部が膨隆する疾患である。今回30代女性が第2子妊娠を期に、高度な腹直筋離開を生じた症例を経験した。外科と合同で手術を行い、菲薄した白線部は切除し、左右の腹直筋膜を正中で縫合した。大腿筋膜を採取して縫合部の上に充填し、腹壁を補強した。考察を加え、報告する。

8. 18年の経過を経て再発した隆起性皮膚線維肉腫の1例

住友別子病院 形成外科

○安井 史明、宮本 なつみ  
(5分)

症例は38歳男性。20歳の時に頭皮に発生した隆起性皮膚線維肉腫の切除術を施行され、植皮・皮弁術にて被覆されていた。同部位に結節を生じたため当科初診。切除生検の結果再発と診断され、骨膜を含めた追加切除術を施行した。腫瘍細胞は帽状腱膜下に広範に浸潤しており、治療に難渋したため報告する。

9. 急速に進行し下腿切断に至った多形性肉腫の1例

四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍外科

○藤田 悟志、河村 進、山下 昌弘

(3分)

去年の夏頃から右下腿に腫瘤を自覚し、徐々に増大し出血や排膿を認めるも自己処置を行っていた。今年4月に近医を受診し、悪性が疑われ当院を紹介受診した。当科初診時に生検を行い、結果は多形性肉腫であった。当院整形外科とも相談し、まずは下腿を温存するために病変の切除および皮弁再建を検討した。リンパ節生検や全身検査を施行している間に腫瘤は急速に増大し、初診から1ヵ月半後に下腿切断を施行するに至った。

## section 4 (18:09~18:25) 座長: わたなべ皮ふ科・形成外科 渡部 隆博 先生

## 10. 放射線治療後に再発したKaposiform hemangioendothelioma(KHE)にVincristine療法が奏功した一例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○泉本 真美子、戸澤 麻美、木村 千寿、松満 紗代子、村上 達郎、三宅 啓介、森 秀樹、  
中岡 啓喜

(5分)

日齢15男児。出生時、左大腿に6×8cm大の暗紫色隆起性腫瘍と血小板減少を認め、血管腫に伴うKasabach-Merritt phenomenonが疑われ、前医で $\beta$ -blockerの内服を開始された。当院転院後、大腿部腫瘍の生検を行いKHEと診断した。ステロイド内服を開始したが改善なく、追加療法として放射線療法を行った。腫瘍の縮小と血小板減少の改善がみられたが、放射線療法終了4か月後に腫瘍の再増大がみられVincristineの投与を開始したところ腫瘍の縮小を認めた。

## 11. 頸部から胸部にかけて発生した巨大リンパ管腫の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○木村 千寿、森 秀樹、戸澤 麻美、三宅 啓介、村上 達郎、松満 紗代子、泉本 真美子、  
中岡 啓喜

(5分)

症例:2歳 女児

現病歴:妊娠経過中に左腋窩部に多房性嚢胞性病変を指摘され、出生時に頸部から腋窩にかけての巨大軟腫瘍を認め、生検でリンパ管奇形と診断した。

治療および経過:生後3か月頃から睡眠中のいびきとSpO<sub>2</sub>低下を認めるようになり、MRIでも気管の圧排を認め硬化療法を行った。術後も睡眠時のSpO<sub>2</sub>低下が見られたため、夜間nasal high flow(C-PAP)を装着した。計9回にわたり硬化療法を行っているが、頸部や腋窩には巨大病変が残存している。

総会（18:25～18:50）

1. 次回研修会の日程

2. その他